

# 讃岐うどん 商店街の陣

高松市の南新町商店街にこの半年間で讃岐うどんの人気店が相次いでオープンし、昼時にサラリーマンらでごった返している。同市中央商店街では近年、うどん店が急増。相乗効果で新しい人の流れを呼び起こし、商店街活性化のけん引役となっている。

南新町商店街では8月18日に「たも屋女道場」、11月5日に「麺処 綿谷」の高松店がオープン。近隣には全国チェーンのセルフ店や老舗の一般店、スーパーが経営するセルフ店などがひしめき合い、同市中心部で屈指のうどん店激戦地の様相をみせている。

百十四銀行や香川銀行の本店、四国電力高松支店などと近く、県庁や高松市役所からも徒歩圏内。両店とも昼食需要を当て込んだ営業戦略を徹底し、正午を過ぎるとスーツ姿の男性客がどっと詰めかける。

男性会社員(42)は「日替わりであちこちのうどん店を回っている。列に並んで

香川とびっくす



高松市の南新町商店街にオープンした讃岐うどんの人気店。昼時になると、サラリーマンらの長い列ができる

も回転が速いし、客が多いといつも出来立ての麺を食べられる」と満足そうに話す。若い女性会社員3人のグループも「手っ取り早い

から、週1回は必ず来る」と口をそろえる。

たも屋女道場は同市朝日新町に本店を置いたも屋の3店目の直営店で、その名の通り女性スタッフだけで運営する。ピーク時には50人以上が列をつくり、女性

客も目立つ。黒川真弓専務は「この地点を狙っていた。商店街にうどん店が増えるのは喜ばしく、『讃岐うどんと呼ばれるくらい

になれば」と話す。

丸亀市北平山町が本店の「麺処 綿谷」は高松店が2号店。県都での知名度は高くないが、口コミで着実にファンを増やしている。運営会社の丸和給食(丸亀市)の岡崎真也専務は「商店街のにぎわいづくりに役立ちたいと出店した。本店も激戦区でやってきており、高松でも選ばれた店」と力を込める。

高松市中央商店街では、うどん店は兵庫町で5店が営業しているが、ファッション系の店が中心の丸亀町や南新町ではこれまで比較的少なかった。ところが、丸亀町で「明石家」が靴店から業態変更して2006年にオープンするなど、出店の動きが加速してきた。

高松南新町商店街振興組合は「地価下落でテナントの賃料が下がり、商品単価が安いうどん店も出店しやすくなったのではないかと分析。「広くてなかなか借り手がいなかった空き店舗が埋まり、街に活気が出てくる。大変ありがたい」と歓迎している。

## 人呼ぶ麺ロード 高松・南新町出店相次ぐ